

漁村環境保全基礎調査

担当者 調査普及課長 長 峰 良 典
技 師 齋 藤 重 男
技 師 補 中 田 凱 久

I 調査目的

青森県の代表的な汚濁河川である坪川及びそれに連なる小川原湖の水質の現況を把握する。

II 調査内容

1. 調査期間 昭和43年5月～昭和44年3月

2. 調査項目 坪川・小川原湖

3. 調査項目

(1) 漁業の実態、汚濁水の排出状況

(2) 水質・小川原湖の観測

4. 調査方法

坪川16地点、小川原湖10地点について観測・採水は海洋観測法に準じ、水質については通常の分析法によつた。

III 調査結果

坪川に上北鉾山の坑内排水及び選鉾排水により全域にわたつて汚濁されている。秋の豊水期に下流の一部にウグイ、ドジョウの溯上をみるが、それも極めて限られた時期だけで、再生産の場とはなり得ない。

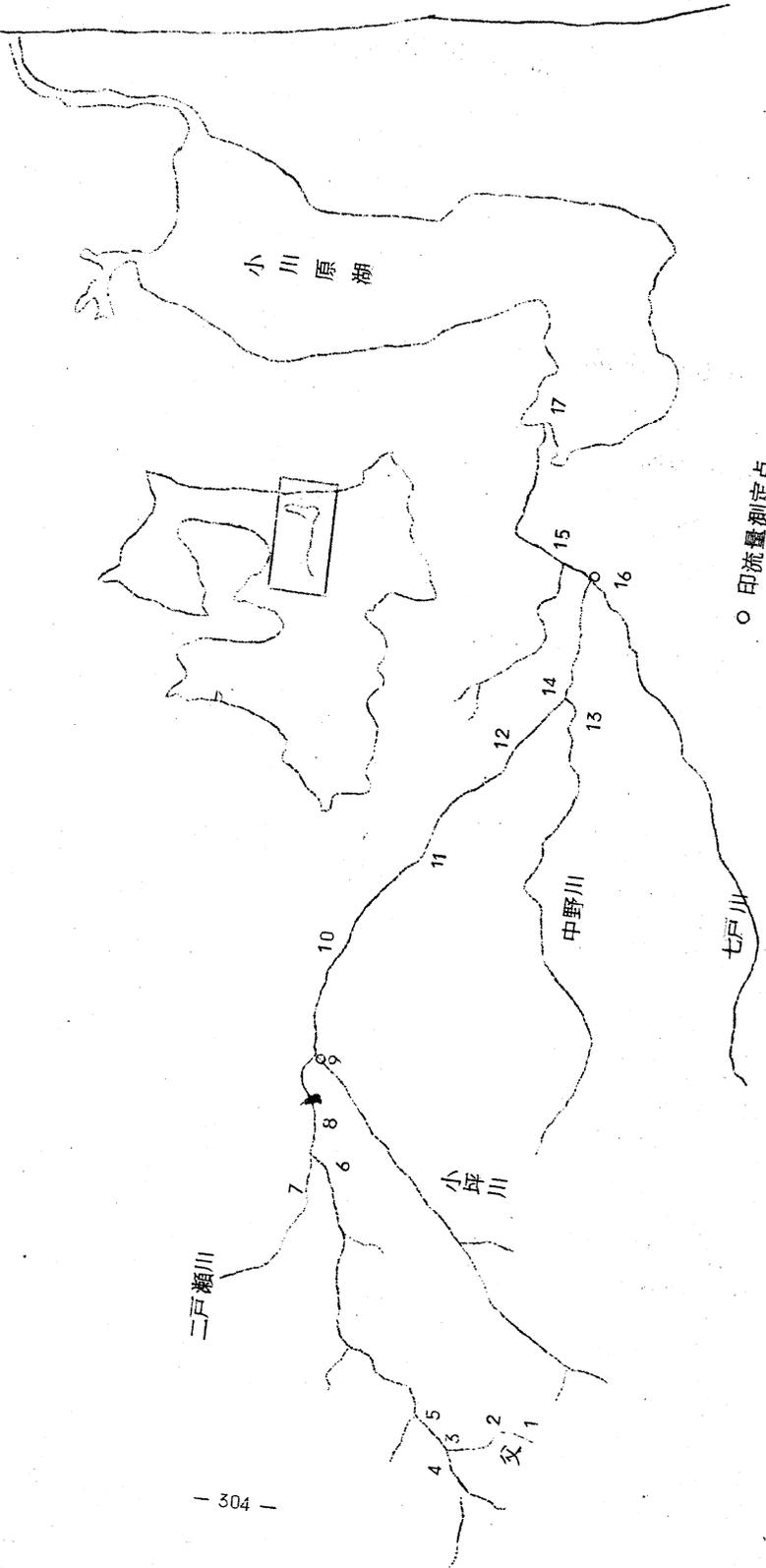
小川原湖は海水の塩分を含む汽水湖であるため緩衝力が強く、河口部のわずかの水域を除いて汚濁水の影響は受けていない。

IV 考 察

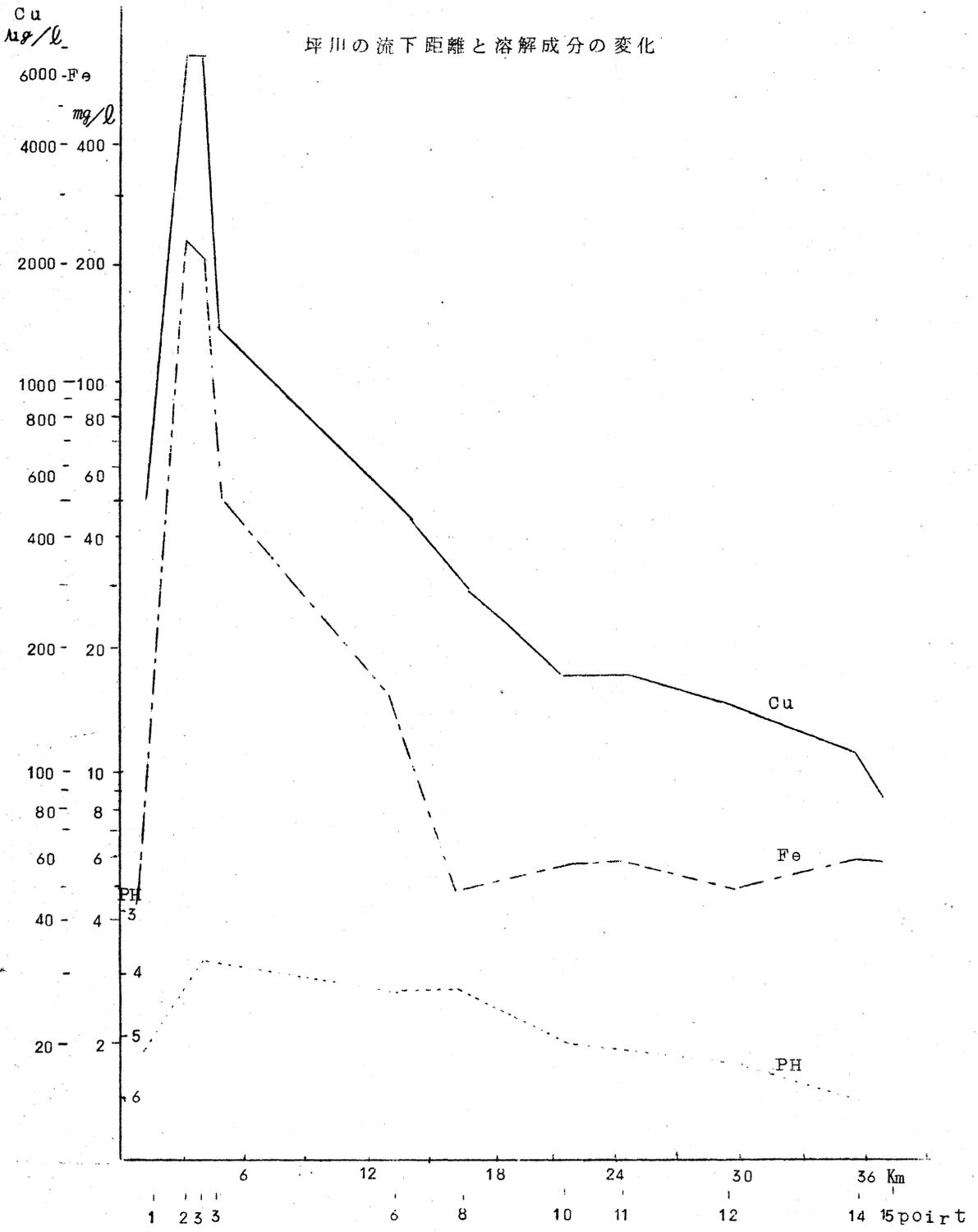
坪川は現在鉾山排水のため魚族の棲めない状態におかれているので、その状態を改善するためには排水処理を完全に行う必要がある。またそのための除毒沈澱池として天間ダムを利用すると非常に効果的である。

(昭和43年度漁場環境調査報告書参照)

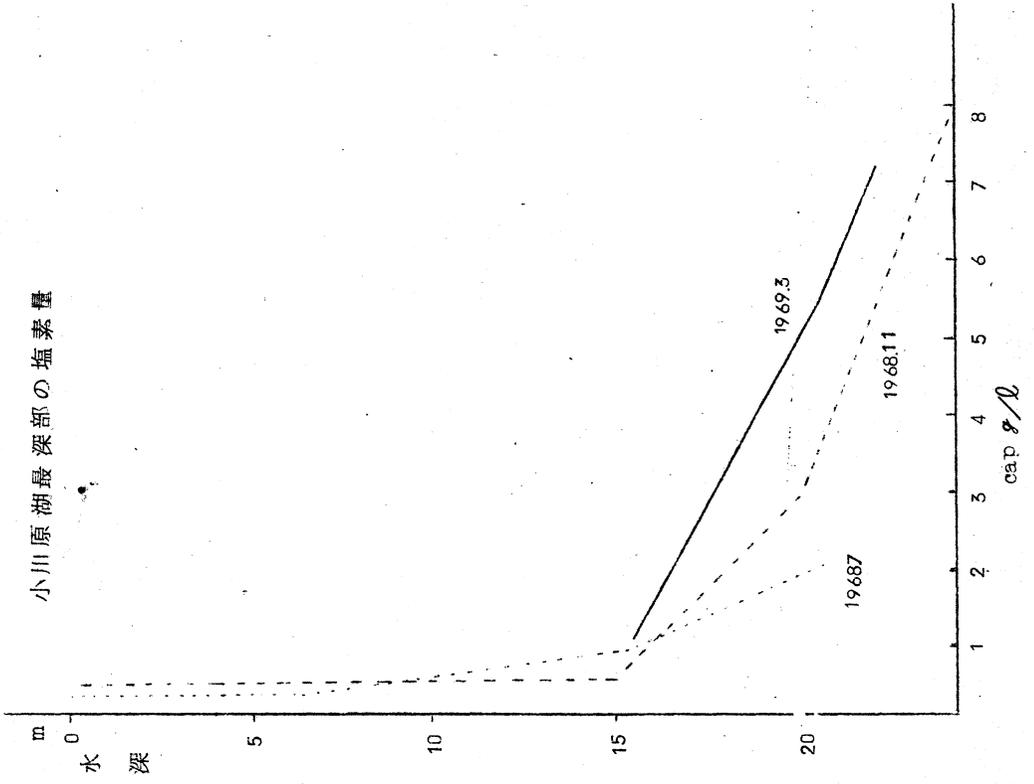
水質及び底棲生物調査点



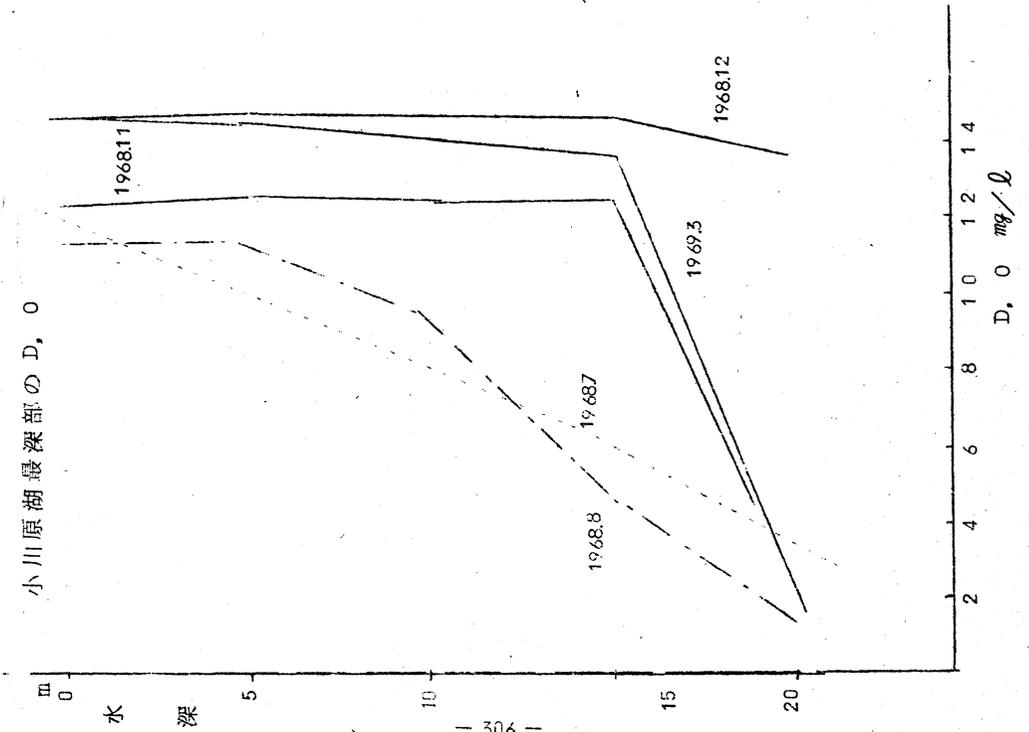
坪川の流下距離と溶解成分の変化



小川原湖最深部の塩素量

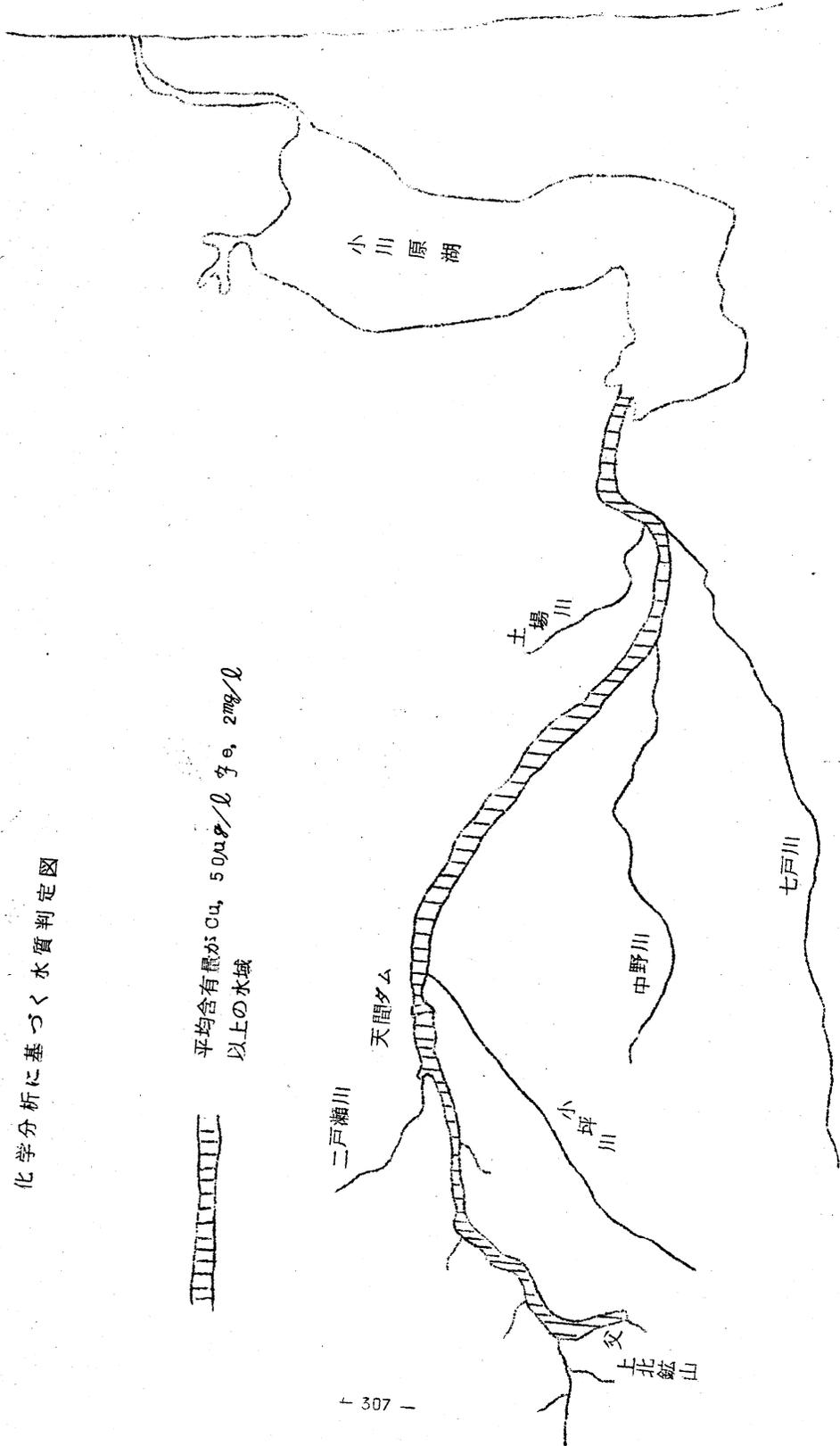


小川原湖最深部の D, O

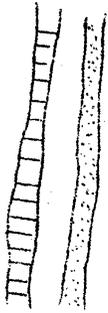


化学分析に基づく水質判定図

平均含有量がCu, 50 μ g/l 以上,
2mg/l 以上の水域



生物的水質判定図



魚が全くいない水域
時には魚の溯上が見
られる水域

